



か つ き

志布志市立香月小学校



新たな気持ち大切に

校長 中條 健一郎

「校長先生、聞いててね。」入学したばかりの一年生が歌を歌ってくれた。「風かおり雲は輝き 香月の庭 集うよき友・・・♪」香月小学校の校歌だ。一年生として香月小学校に入学できたことを心から喜んでいるようだ。

「おはようございます。」高学年の子が妹であろう一年生の手を引きながらぺこりとお辞儀をした。黄色い帽子をかぶった一年生は戸惑っていたが、お姉さんにせかされて同じようにお辞儀をした。高学年の子はすっかりお姉さんに見える。「立ち止まって挨拶をする。」「トイレのスリッパを並べる。」「廊下の移動は、右側を静かに歩く。」等、教師に言われずとも上学年の児童が下学年の児童へ指導をしている。本校では、「そろえる」を合い言葉に指導の徹底を図ってきたが、子どもの心に「そろえる」ことが浸透し始めていることに驚かされる。新しい学年に進級した子どもたちの責任感が、香月の伝統を守っていかうとしている。香月の子である誇りがそうさせるのだろう。また、新学年となって夢や希望に胸はずませる子どもの姿でもある。



二年次となる「ふるさとを誇り、夢を育む教育」を掲げ、家庭、地域と一体となって、さらなる充実を図っていきたい。より、夢を育むためにも、香月読み聞かせグループを立ち上げたい。お母さんやお父さんの声でたくさんのお本に出逢わせていただきたいと願っている。ぜひ、多くの保護者の参加をお願いしたい。

先日、校区に住んでおられるお年寄りの方が学校に来られた際、「香月の子どもたちは、朝会うと必ず立ち止まって挨拶してくれる。」とうれしそうに話してくださった。地域の方々も子どもたちを我が孫のように気に留めてくださっている。校区が子どもを育てようとしておられることに感謝をし、誇らしく思えた。

本年度、57名の一年生が入学してきた。また、10名の先生方が新たに香月小に赴任された。香月に新しい爽やかな風が吹き始めている。



「その時の出会いが人生を根底から変えることがある。よき出会いと(みつお)」

本年度、それぞれのよさを生かした新たな風になることを祈ってやまない。

元気なあいさつから



「おはようございます」朝、生活委員会が玄関で登校してくる友達に元気よくあいさつしています。それに応えるように元気なあいさつを心がけている子どもたちの姿が見られます。本校の重点課題の

一つでもある『立ち止まり、目を見てあいさつ』の実践に向け、子どもたち自らが、意識を高めながら取り組む姿はうれしい限りです。

